

基礎案での記載箇所		章項目	5. 3. 1	ページ	p.46	行	1行目
事業名	16. 治水事業〔一連区間整備〕			河川名	近畿管内:直轄河川		
府 県	大阪府・京都府・滋賀県・兵庫県						

●現状の課題

現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有していない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

●河川整備の方針

(3)一連区間整備の完成等

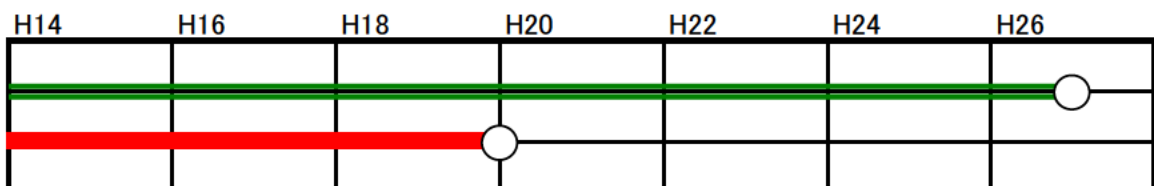
下流の破堤の危険性を増大させる無堤部の築堤等は、下流の河川整備の進捗状況等を見て判断することが原則である。ただし、既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である箇所限定し、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

●位置図



●全体スケジュール

- 検討
- 試行・委員会
- 実施



**事業内容****淀川河川事務所**

- ・隠元橋架替及び隠元橋付近の用地交渉の継続実施(隠元地区)
- ・大下津地区堤防拡幅(大下津地区)
- ・小谷地区浸水対策(小谷)
- ・芥川大橋の架替を継続実施
- ・阪神西大阪線淀川橋梁改築事業(此花区伝法外)

**琵琶湖河川事務所**

- ・大津放水路
- ・草津川
- ・野洲川大山川合流点付近の護岸整備(三上地区)

**猪名川河川事務所**

- ・川西池田地区の築堤の継続実施

●整備効果

～ 被害状況 ～



三田川(昭和57年7月・台風10号)



狐川(平成元年9月・秋雨前線)



盛越川(平成元年9月・秋雨前線)

浸水範囲

被害の比較 (一期区間完成時)

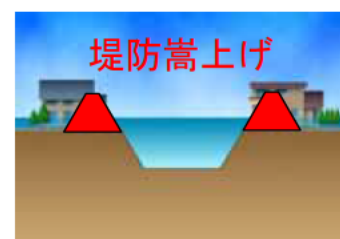
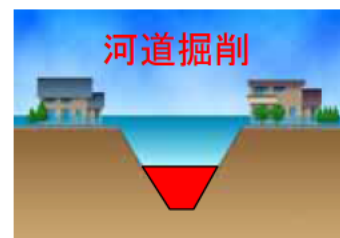
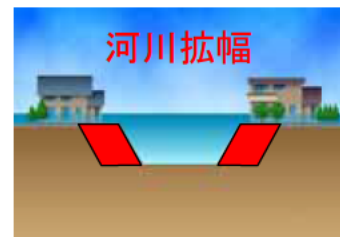


放水路を 建設する前だと、	被害額	床上浸水世帯数	浸水面積
	1560億円	1402世帯	396ha
完成していれば、	1,320億円	923世帯	340ha

## ●提案理由(代替案含む)

## ◇現況河川改修方式

- ・河川を拡幅し河積を拡大することで流量の増加を図る
- ・河道掘削を行い河積を拡大することで流量の増加を図る
- ・現況堤防を嵩上げし、強化することにより氾濫を防ぐ



現況河川の沿川には、住宅が密集し用地を確保することは極めて難しく、これらの改修を行うことは困難である。また、河道掘削だけでは計画流量が確保出来ない。

## ◇上流ダム方式

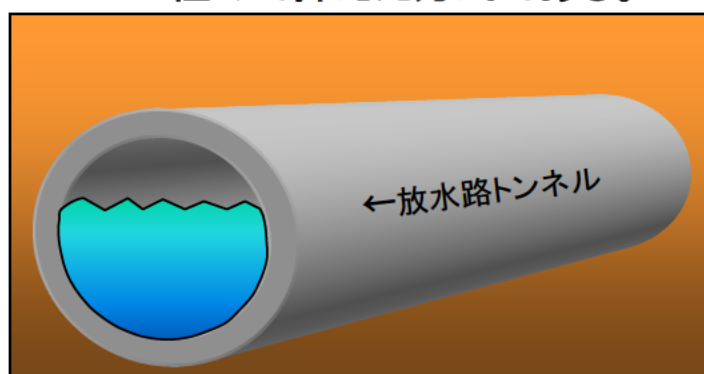
- ・上流域にダムを構築し放流量の調整を行うことにより下流域の安全確保を目指す

流域面積が小さく治水効果が発揮できる候補地がない。



## ☆ 放水路方式が有利 ☆

洪水を新たな河川によって現状河川から分水し、影響の少ない瀬田川に直接放流する方式。また、地下構造としているため周辺地域に対する影響は極めて抑えた方式である。



### ●委員会等からの意見

これまで継続中の未整備事業であり、早急に整備する必要がある。  
事業実施に際しては、下記事項に配慮する必要がある。

- ・事業完成後における環境面のモニタリング
- ・治水効果の確認

### ●進捗状況

平成17年6月12日に大津放水路 I 期区間(瀬田川～盛越川までの約2.4km)の通水を開始した。

通水開始後、2月末現在までに計13回、放水路内への洪水流入を確認しており、出水速報として、ホームページ

(<http://www.biwakokasen.go.jp/others/disaster/news/otsu.html>) 上で公開。

### ●今後の見通し等

引き続き、治水効果の確認を行うとともに、その効果を広く一般の方々に知っていただくため、速やかに出水報告としてホームページ上で公開していく予定。

また、流入支川整備や維持管理等について、関係機関と協議を行っていく予定。

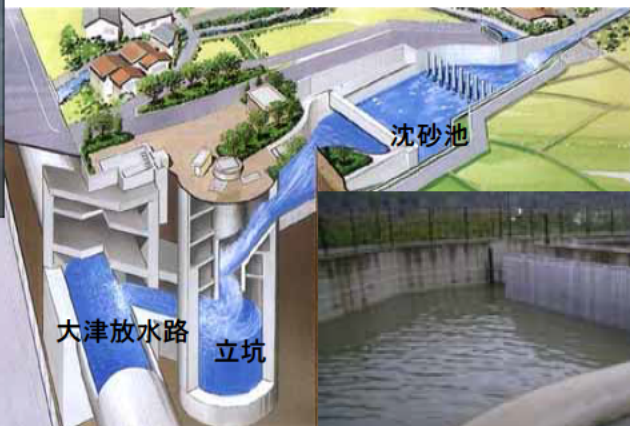
### ●進捗状況

大津放水路 I 期区間

通水開始(H17. 6)



降雨により増水した河川から越流堰を越えて洪水が分水施設内



大津放水路を流下した洪水は瀬田川に合流



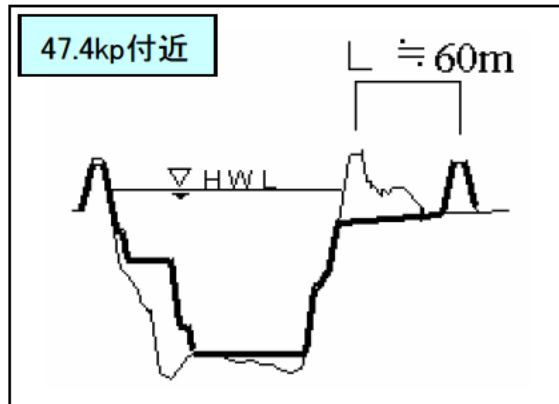
流入した洪水は土砂を堆積させつつ沈砂池を通過し立坑へ



隠元地区

●具体的な整備内容

隠元橋の架替を京都府の道路事業と共同で実施し、隠元地区一連区間の堤防整備を継続実施する。



●スケジュール

H19年度の、新橋の供用開始を目標に、現在上部工の架設を実施している。

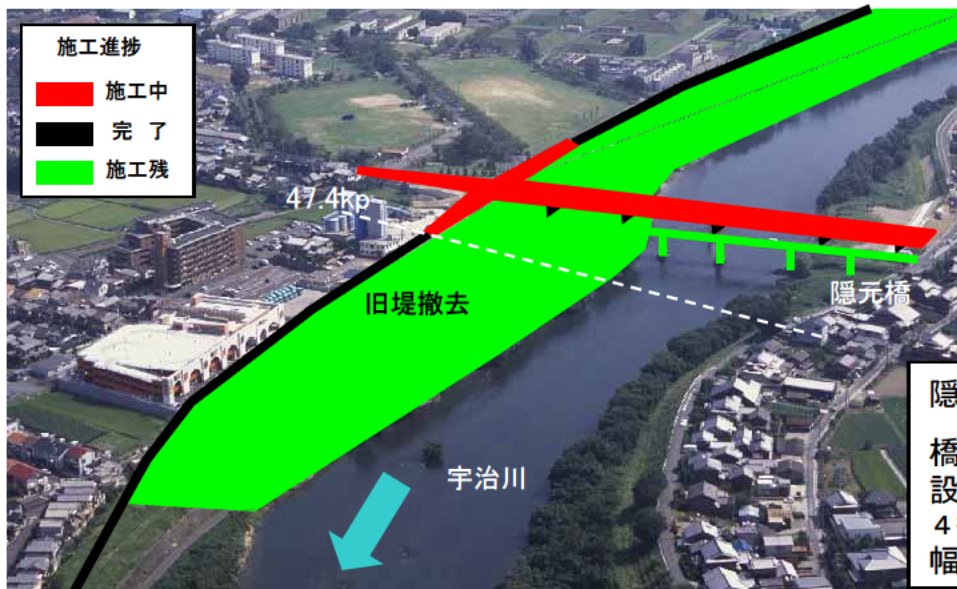
工種	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	備考
用地費	■		■	■				
築堤	■							
附帯工事	桁製作	■						
	上部工架設		■	■				
旧橋撤去				■	■	■		
旧堤防撤去					■	■	■	一部のみ撤去
張り芝				■	■			

●検討・実施内容

旧堤(約1,400m)撤去の仕方については、今後、検討していく。



●概要



隠元橋諸元  
 橋長 195.5m  
 設計速度 60km/h  
 4径間連続鋼床板箱桁橋  
 幅員 27.8m

S55年より、流下能力の増大のため、堤防整備事業を実施しており、隠元橋架替を京都府と一体的に進めている。

隠元地区(橋梁部付近)の堤防整備を継続実施する。

●進捗状況報告

S55年より着手された隠元地区の堤防整備事業は、現在、新橋架設(京都府施工)及び、旧堤・旧橋の撤去を残すのみとなっており、H21年度を目標に一連区間の堤防整備事業を完成させる(H19年度に新橋供用開始を予定)。

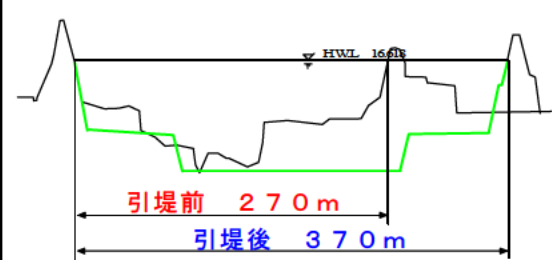
ただし、旧堤(約1,400m)撤去については、今後、検討を行い実施していく。

大下津地区

●具体的な整備内容

大下津地区において、住宅地整備と一体となった堤防拡幅を継続実施する。

標準横断面図



●検討・実施内容

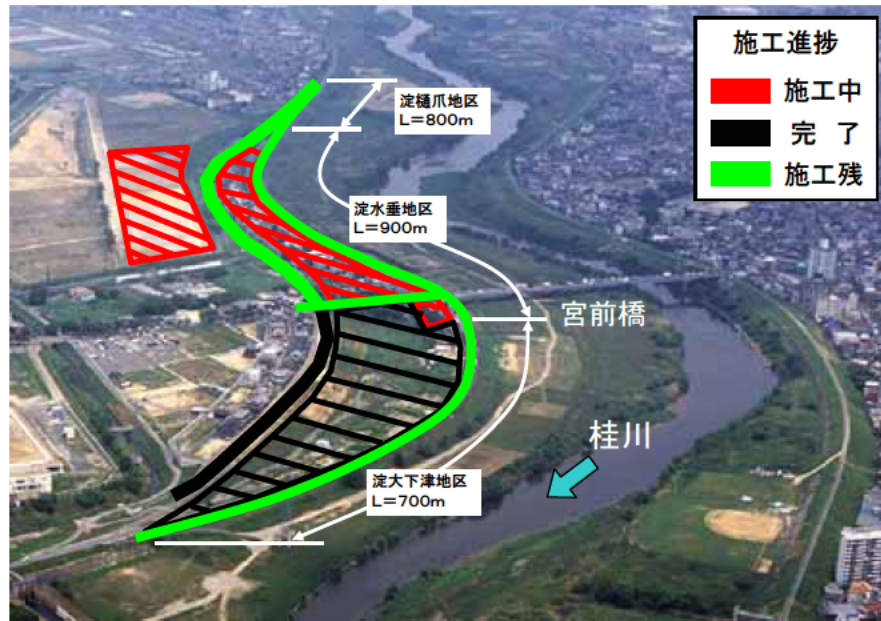
旧堤(約2,400m)撤去の仕方については、今後、検討していく。

●スケジュール

工種	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
淀大下津											
旧堤撤去											
用地費	■										
築堤											
淀水垂											
旧堤撤去											
樋門											
橋梁継足											
支障物件移設											
用地費	■										
淀樋爪											
築堤											
旧堤撤去											
用地費											

■ 実施済  
■ 実施

●概要



S63年より、流下能力の増大のため、堤防整備事業を実施しており、京都市の関連事業(代替地整備)と連携し、堤防整備を継続実施している。

●委員会等からの意見

これまで継続中の未整備事業であり、早急に整備する必要がある。事業実施に際しては、下記事項に配慮する必要がある。

- ・予定されている堤防補強事業との整合性
- ・環境保全対策

●進捗状況報告

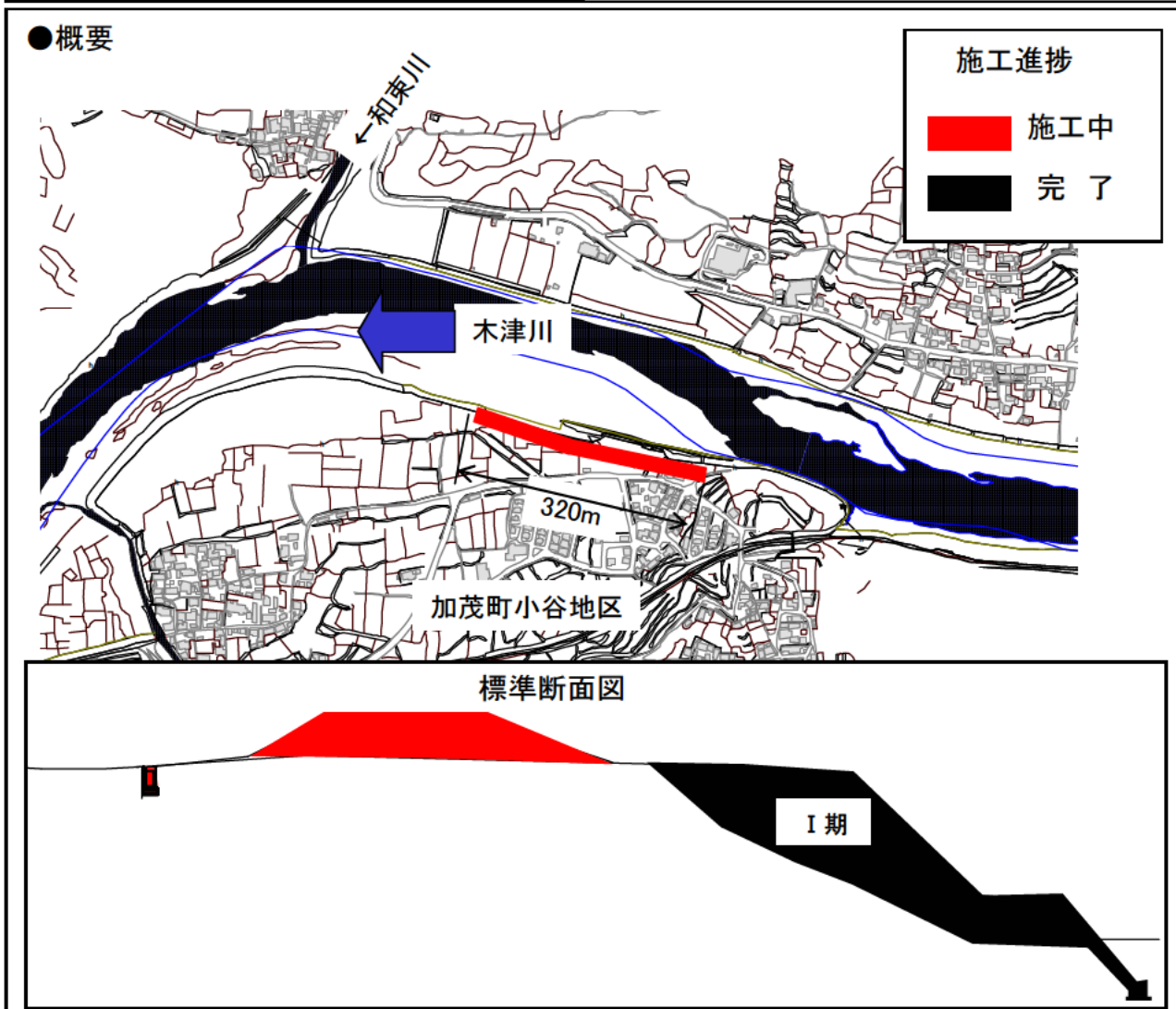
S63年より着手された大下津地区(淀大下津・淀水垂・淀樋爪地区)の堤防整備事業は、H14年に淀大下津地区の代替地移転を完了し、H15年より淀水垂地区の用地買収に着手している。淀水垂地区については、H18年1月より代替地への移転を開始する。引き続いて、H22より淀樋爪地区の用地買収に着手する予定である。

今後は、支障物件の移設と、橋梁の継ぎ足しを実施し、H23年度を目標に淀水垂～淀樋爪地区にかけて、新堤の築堤を完了させる。

また、下流の堤防補強対策の進捗を踏まえ、旧堤(約2,400m)撤去の仕方については、十分検討した後に、H26年度を目標に大下津地区一連区間の堤防整備事業を完成させる。



<b>小谷地区</b>														
<p>●具体的な整備内容 無堤箇所である木津川左岸32.0kmの小谷地区の築堤。</p>	<p>●スケジュール H17年度をもって、小谷地区一連区間の堤防整備事業は概成した。</p>													
<p>●検討・実施内容 小谷地区の築堤を実施する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>工種</th> <th>H17</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl;">小谷地区</td> <td>築堤</td> <td></td> <td style="text-align: center;">■■■</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <div style="margin-left: 20px;"> <table border="1"> <tr> <td style="width: 20px;">■■■</td> <td>実施</td> </tr> </table> </div>			工種	H17	小谷地区	築堤		■■■				■■■	実施
		工種	H17											
小谷地区	築堤		■■■											
■■■	実施													



●委員会等からの意見  
 これまで継続中の未整備事業であり、早急に整備する必要がある。  
 事業実施に際しては、下記事項に配慮する必要がある。  
 ・予定されている堤防補強事業との整合性

●進捗状況報告  
 S60年より着手された小谷地区の堤防整備事業は、H17年度をもって一連区間を概成する。

# 川西池田地区

## ●具体的な整備内容

川西、池田地区の築堤を継続実施する。

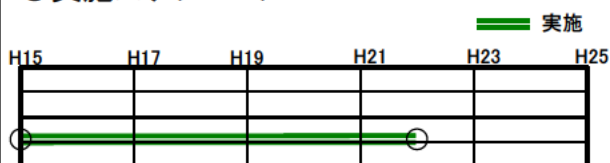
## ●事業費

- ・全体事業費 約480億円
- ・うち執行済 約466億円
- ・うち整備計画期間内 約14億円
  - 築堤 約11億円、橋梁 約2億円
  - 樋門 約1億円
- ・うち整備計画期間以降 約0億円

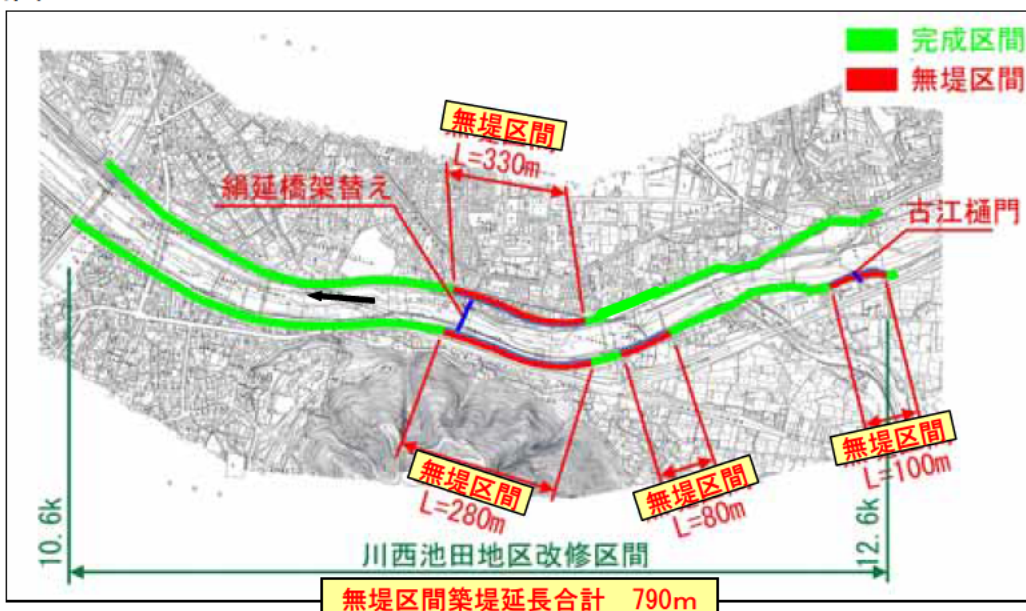
## ●事業の数量・諸元等

- 築堤 約4km
- 樋門・樋管 5基
- 橋梁 2橋
- ・うち整備計画期間内の数量・諸元等
  - 築堤 約1km
  - 樋門 1基
  - 橋梁 1橋

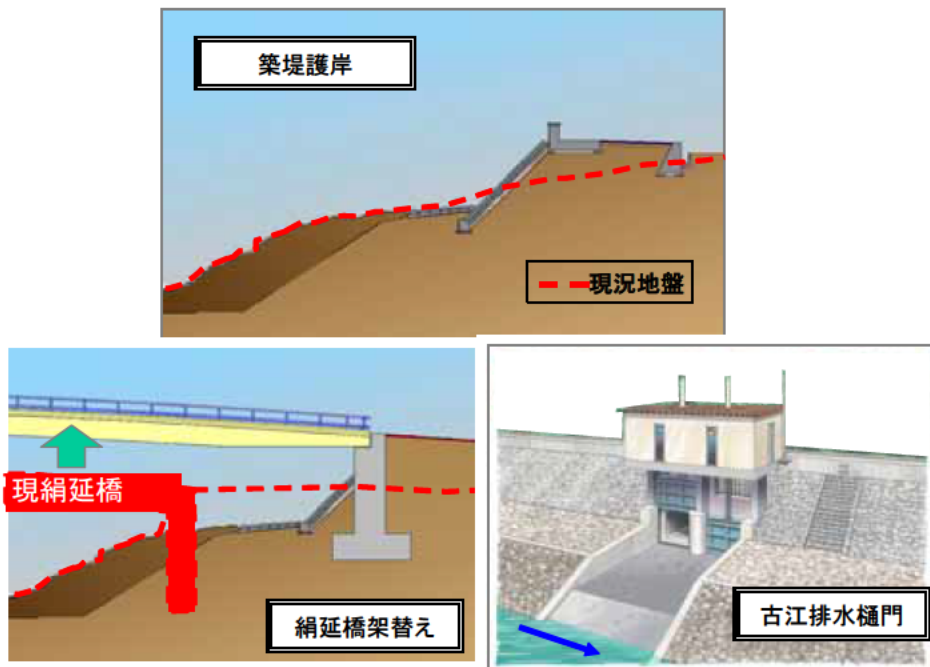
## ●実施スケジュール



## ●平面図



## ●横断面図



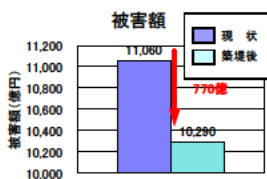
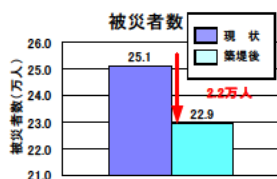
●整備効果

・既往最大洪水 (S35.8洪水) に対する  
無堤地区からの浸水被害が解消する。

既往最大洪水時(S35.8洪水)がおこると、



○部の浸水被害が解消する



●継続理由

・無堤区間は、  
猪名川右岸：約330m  
猪名川左岸：約460m 合計 約790m

<関連事業の必要性>

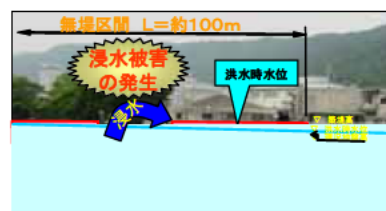
□ 網延橋架替え

築堤後、残された橋の箇所は川幅が狭いため水が流れにくく、大水がきた場合、越水により近接する人家が危険となる



□ 古江排水樋門

築堤後、樋門がなければ  
洪水時に水路部から宅地に浸水する



●委員会等からの意見

【猪名川部会】

現在、川西市の池田地区で合計850mに亘り、無堤地区が存在し、洪水時に浸水の恐れがあり、早急に築堤を実施する必要がある。とくに本年のような気象条件が続くようであれば、住民の生命財産を守るため、本水系での整備計画で、優先順位を上げて堤防の補強や築堤の工事を早急に計画実行に移す必要がある。

●進捗状況

事業継続中。平成17年10月13日付官報公示による事業認定を受け、大阪府収用委員会への裁決申請中。用地取得済区間において築堤工事等に着手。

●進捗状況  
状況写真



↑築堤工事の様子



↑高水護岸工設置の様子

芥川大橋

●具体的な整備内容  
芥川大橋の架替を大阪府の道路事業と共同で実施。

●検討・実施内容  
芥川大橋架替に伴い、流下能力の向上が図れ、上流区間の水位が低減する。

●スケジュール  
H15年度をもって、芥川大橋架替事業は完成した。

工種		H15
芥川大橋	橋梁架替	■
	護岸工	■

■ 実施済

●概要

●委員会等からの意見  
これまで継続中の未整備事業であり、早急に整備する必要がある。  
事業実施に際しては、下記事項に配慮する必要がある。  
・まちづくり事業との関係

●進捗状況報告

施工前

施工後(下部)

施工後(上部)

H9年より着手した橋梁架替事業については、大阪府の道路事業と一体的に施工を実施し、H15年度をもって、一連事業を完成した。

**大津放水路**

●具体的な整備内容  
大津放水路(トンネル放水路)を一期区間(瀬田川~盛越川まで)のうち、盛越川分土工、瀬田川合流部処理を継続実施する。

●事業費

- ・全体事業費 **643億円**
- ・うち執行済 **643億円**
- ・うち整備計画期間内 0円
- ・うち整備計画期間以降 0円

・事業の数量・諸元等

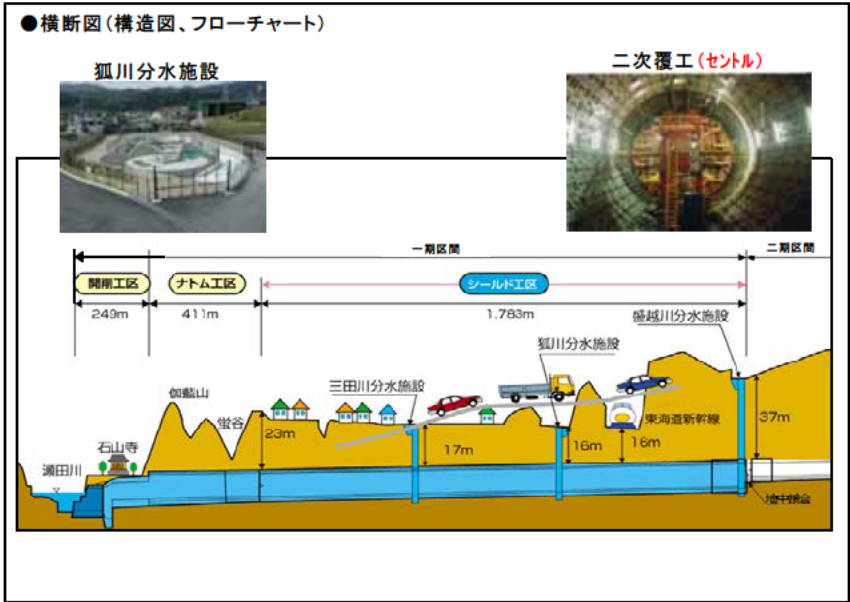
開削水路部 L=249m  
トンネル部(NATM) L=411m  
トンネル部(シールド) L=1,783m  
分水施設 3箇所(三田川、狐川、盛越川)  
橋梁 1橋

・うち整備計画期間内の数量・諸元等

開削水路部、シールド区間、盛越川分水施設、三田川分派施設、各管理設備

●スケジュール

H15	H17	H19	H21	H23	H25
■ 実施					



# 草津川放水路

## ●具体的な整備内容

金勝川取付工及び、橋梁架設を継続実施する。

## ・事業の数量・諸元等

放水路延長 5.5km

計画高水流量 800m<sup>3</sup>/s

掘削工 L= 5.5km

護岸工 L=11.0km

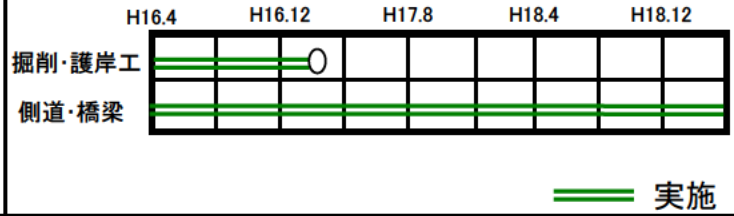
橋梁 N= 19橋

床固工(落差工) N= 1基

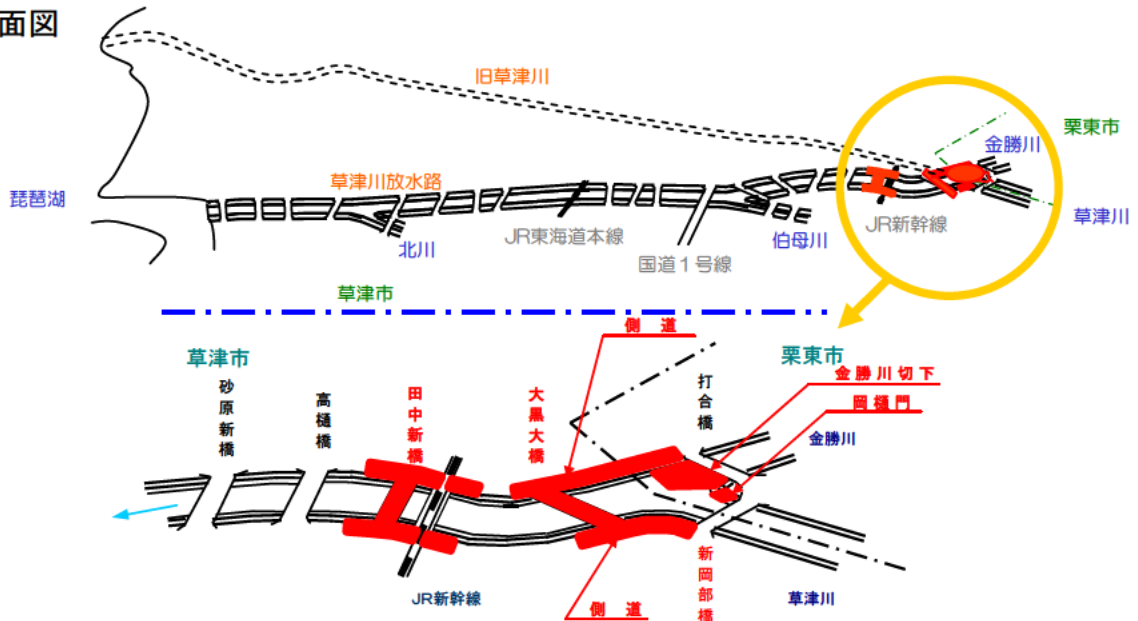
## ●事業費

- ・全体事業費 約 834億円
- ・うち執行済 約 823億円
- ・うち整備計画期間内 約 11億円
- ・うち整備計画期間以降 0円

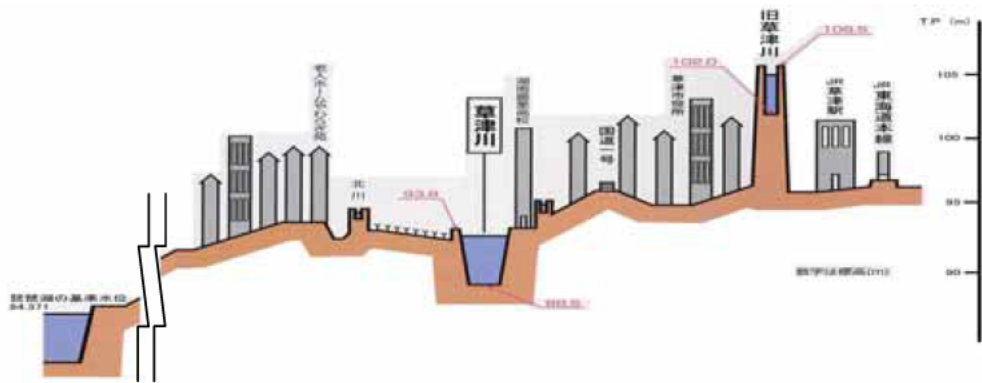
## ●スケジュール



## ●平面図



## ●地形横断図



旧草津川は、過去からの度重なる洪水により背後地より5~6mも河床が高い河川となりました。

草津川放水は、流下能力を確保すると同時に、背後地より4~5m河床が低い掘込河道にすることで、被害ポテンシャルの軽減も図ります。

●整備効果

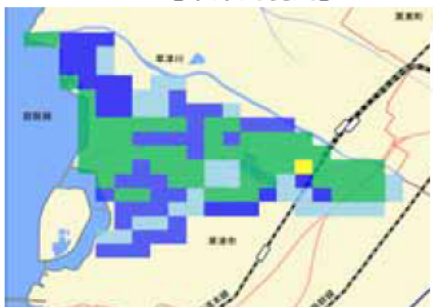
草津放水路の治水効果

【草津川現川】	
流下能力	約150~170m <sup>3</sup> /s程度 上流域50mm程度の降雨で警戒水位を突破
天井川	5~6mも背後地より河床が高い
川幅	40~50m程度 河口ほど狭くなっている
直轄延長	7.5km
流域面積	36km <sup>2</sup>

【草津川放水路】	
流下能力	基準地点800m <sup>3</sup> /s S28.13号台風の1.7倍(降雨434mm)の降雨でも安全 S28.13号台風は草津川の堤防が破堤して、浸水家屋は12,000戸にも及んだ
天井川解消	河床は背後地より4~5m低い
川幅	河口部 100m 中流部 80m 上流部 40~60m
直轄延長	5.5km
流域面積	48.3km <sup>2</sup>

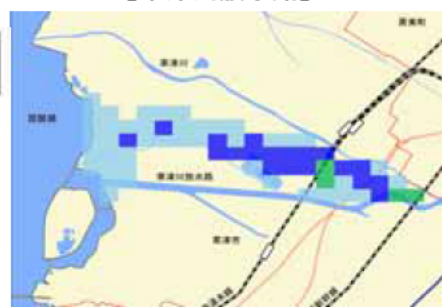
■ 既往最大洪水の2倍相当の雨量で、草津川放水路により氾濫被害は約3分の1以下に減少します。

【草津川現川】



破堤氾濫(左岸6.4km地点で破堤)  
左岸6.4km付近: 浸水面積1,000ha  
最大湛水深2m以上  
被害額 約3,500億円

【草津川放水路】

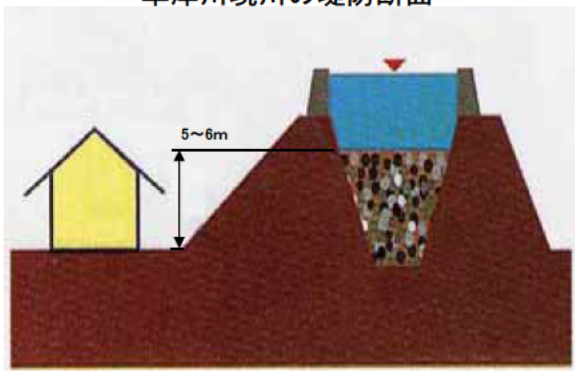


破堤氾濫(右岸5.1km地点で破堤)  
右岸5.1km付近: 浸水面積400ha  
最大湛水深1.5m以上  
被害額 約1,000億円

最大浸水深

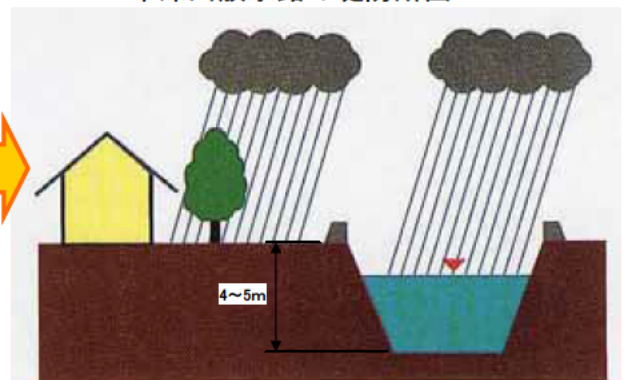


草津川現川の堤防断面



草津川現川は、全国でもめずらしい天井川で洪水が起こった場合には重大な被害があった。

草津川放水路の堤防断面



草津川放水路事業により、掘込河道となり安全な河川となった。

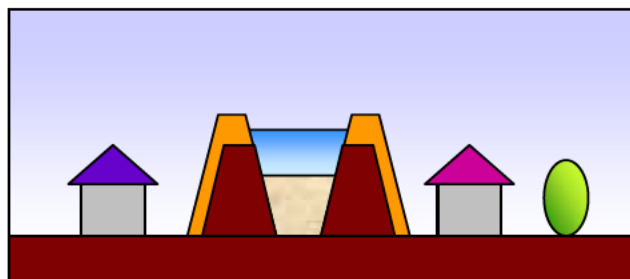
継続事業の必要性

草津川放水路事業により、現道が通行出来ないため、周辺住民は仮設橋梁及び迂回を強いられており、継続事業を早期完成することで、周辺住民の安全面及び生活面回復が図れます。

●提案理由(代替案含む) ※平成15年時 比較

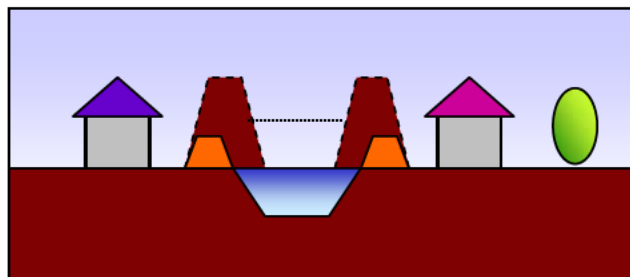
◇堤防嵩上案  
概算事業費 約 720億円

- ・被害ポテンシャルを増幅させる。
- ・過去の対策の繰り返し



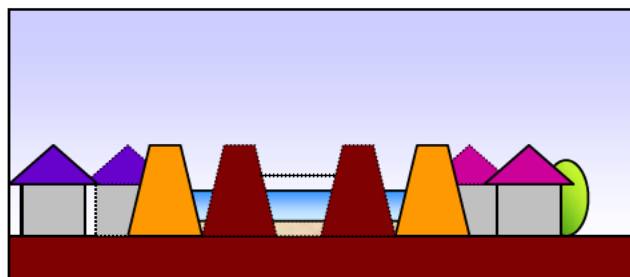
◇現川切下案  
概算事業費 約 880億円

- ・被害ポテンシャルの軽減が可能。
- ・通水しながらの施工→長期化



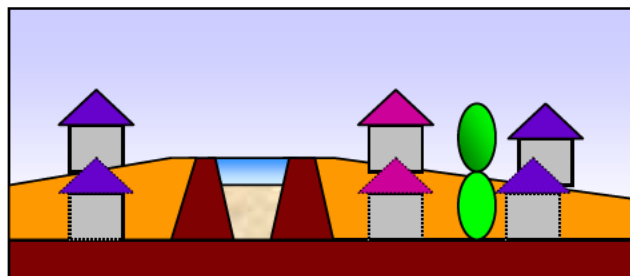
◇現川拡幅案  
概算事業費 約1,060億円

- ・天井川としての形態は緩和される。
- ・街づくりとの調整が必要→長期化



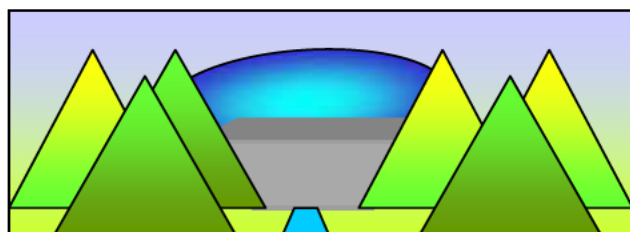
◇高規格堤防案  
概算事業費 約 6,234億円

- ・街づくりとの調整が必要→超長期化



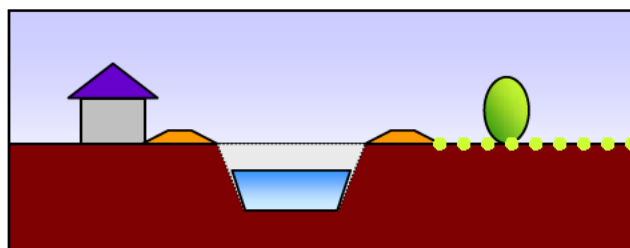
◇上流ダム案  
概算事業費 一億円

- ・地形的にダム建設に適していない。  
(草津川の大部分は平地であり、山岳部の流域面積が非常に小さい。)



◇放水路案  
事業費 約 834億円

- ・被害ポテンシャルの軽減が可能。



被害ポテンシャルを軽減させ、経済性・事業期間から放水路案を実施



●委員会等からの意見

(基礎原案への意見に同じ。)

これまで継続中の未整備事業であり、早急に整備する必要がある。

事業実施に際しては、下記事項に配慮する必要がある。

- ・事業完成後における環境面のモニタリング
- ・治水効果の確認

●進捗状況

《モニタリングの実施》

・河床変動対策の工事実施

河床変動モニタリングの結果、深掘れが確認されたため、H17年6月～H18年3月に掛けて構造物への安全性を確保する為の河床整正工事を実施。この際、河床安定後の撤去を考慮して、帯工には簡易的な袋詰玉石を施工。

・環境モニタリング

環境モニタリングについては、環境-1を参照。

《大黒大橋》

H16年度より公共補償(添架物件)の調整を行い、現在は橋梁取付道路工事および公共補償工事を実施中である。

《田中新橋》

JR東海道新幹線の近接工事に伴う設計検討をH16年度よりJR東海に委託し、H18年2月に道路管理者(草津市)施工として協定を締結している。

《事業整理》

事業損失補償、用地補償等について、引き続き促進中。

《治水効果の確認》

昨年度出水実績

平成17年7月14日 最高水位1.96m 想定流量70.82m<sup>3</sup>/sである。

上記流量より、旧草津川での水位を想定すると、H≒1.2mとなり、旧草津川では、警戒水位=0.8mを上回ることから、第二警戒体制を発令する状況であった。

●進捗状況(状況写真・イメージ等)

**河床変動対策**

**工事の進捗**

平成14年9月撮影

平成17年11月撮影

凡 例	
	実施済
	実施中
	実施予定

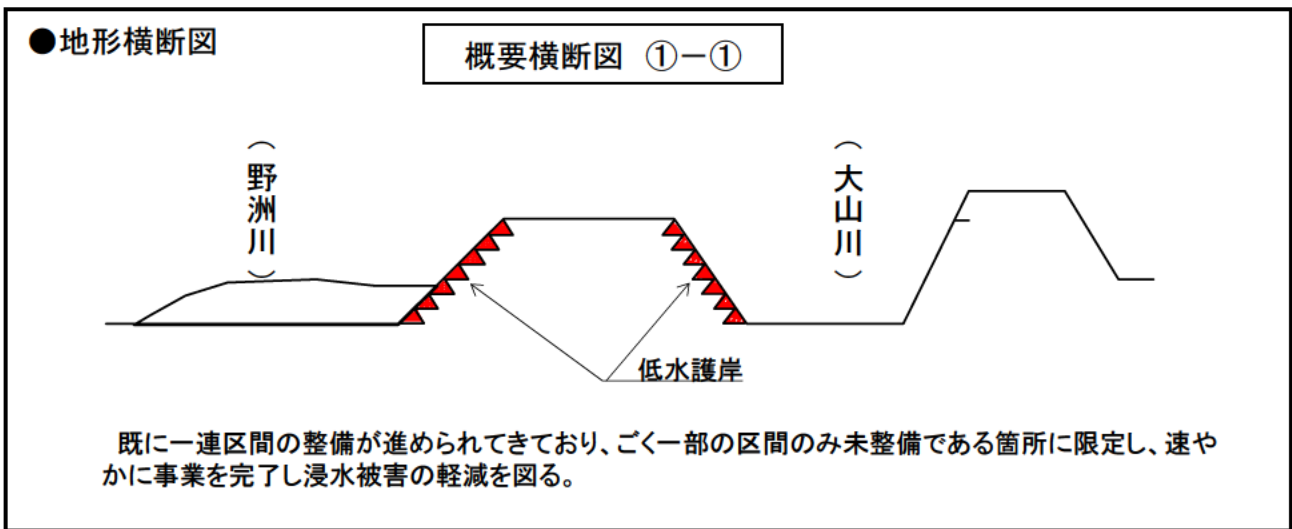
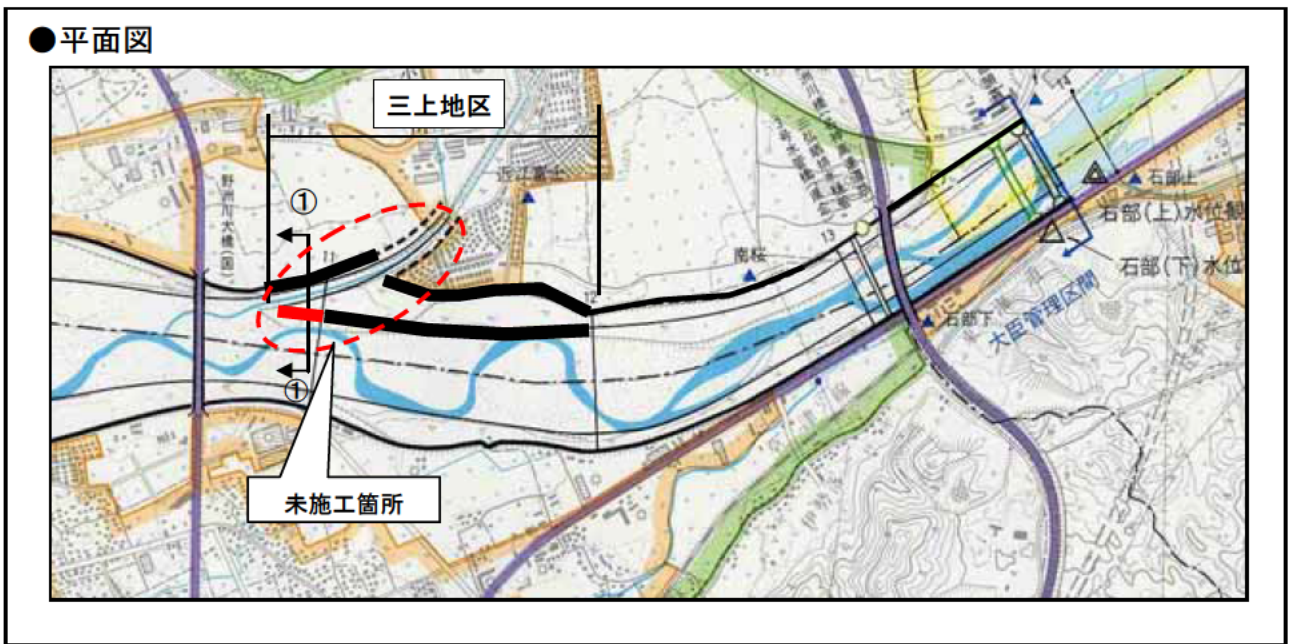
帯工設置状況

河床整正前

河床整正後

【平成18年3月22日版】

<b>三上地区</b>																									
<p>●具体的な整備内容 支川大山川合流部の掘削護岸を継続実施する。</p>	<p>●事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体事業費 約 12.2億円</li> <li>・うち執行済 約 11.6億円</li> <li>・うち整備計画期間内 約 0.6億円</li> <li>・うち整備計画期間以降 0円</li> </ul>																								
<p>・事業の数量・諸元等 三上地区改修 計画高水流量 4,500m<sup>3</sup>/s 掘削工 V= 180千m<sup>3</sup> 護岸工 L= 0.8km</p> <p>・うち整備計画期間内の数量諸元等 <b>掘削護岸等</b></p>	<p>●スケジュール</p> <p>H15 H17 H19 H21 H23 H25</p> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td style="text-align: center;">—</td><td style="text-align: center;">○</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p style="text-align: right;">— 実施</p>							—	○																
—	○																								



**●整備効果**

◇三上地区:昭和62年に着手した一連区間の早期完成

- 整備による下流への影響  
下流部に対する影響は無い

**●提案理由(代替案含む)**

- ◇三上地区整備の必要性
  - 昭和62年に着手した一連区間の早期完成を図る。
- ◇具体的な整備内容
  - 三上地区の護岸等未施工箇所を平成18年度中に完成する。

## 阪神西大阪線淀川橋梁改築事業

## ●具体的な整備内容

河川整備の進捗状況を踏まえて、洪水時に流下能力阻害となる阪神電鉄西大阪線橋梁の改築時期を検討する。その後、他の同様の橋梁(淀川大橋、伝法大橋)の改築を検討する。

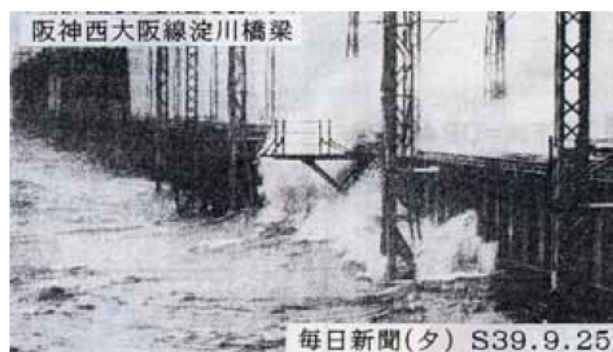
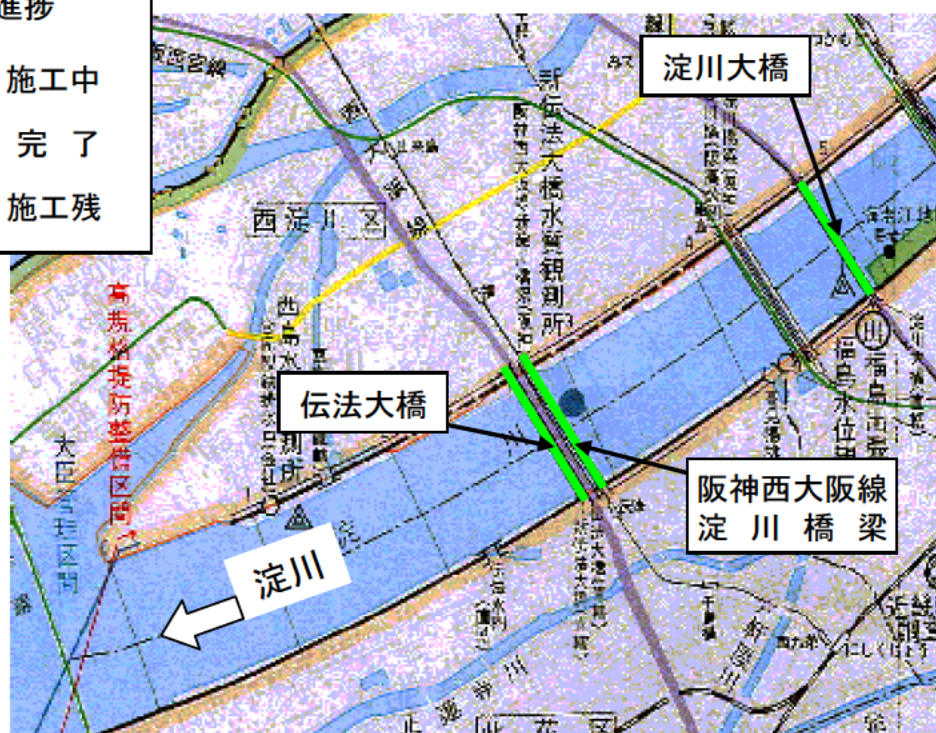
## ●検討・実施内容

既成市街地での橋梁架替事業は、河川管理者単独での実施は、街づくりの観点からも困難であり、関連事業との共同事業で進める方針である。

## ●概要

## 施工進捗

- 施工中
- 完了
- 施工残



橋梁の桁下が低いため、洪水の安全な流下に支障をきたしており、早急な橋梁改築が必要となっている。

計画高水流量12,000m<sup>3</sup>/sに対して7,800m<sup>3</sup>/sと65%しか確保されていない。



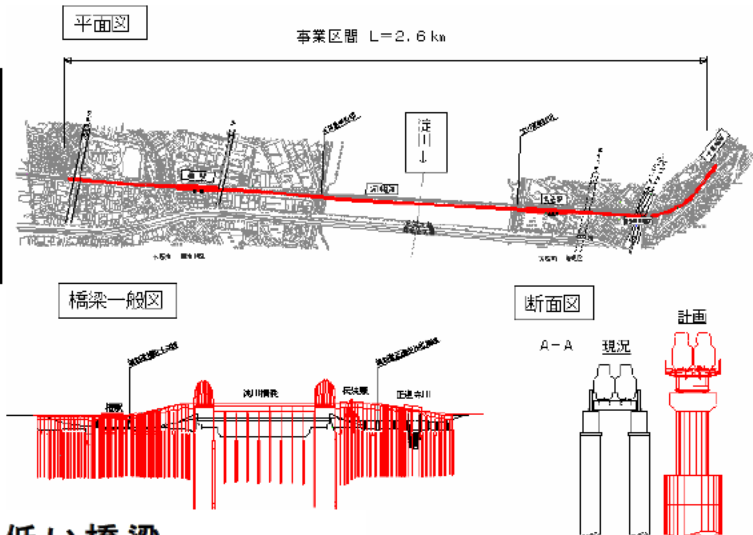
阪神西大阪線淀川橋梁

	現況	改築後
計画流量	12,000m <sup>3</sup> /s	
堤防高	OP+8.1	
HWL	OP+5.2	
最小径間長	15.4	65.7
ピア数	39	12
流下能力	7,800	12,000
計画流量に対する割合	65%	100%

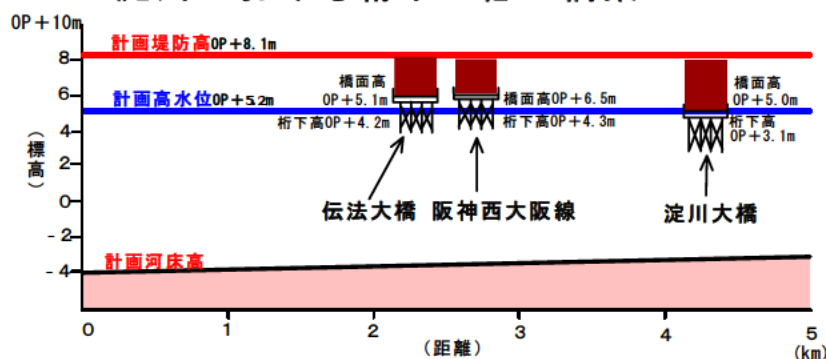
阪神西大阪線淀川橋梁改築事業

● 橋梁構造の検討

橋梁架替構造形式に関しては、桁下高1.0m案と4.7m案について、市街地への影響や、事業費等の様々な面で比較検討を実施し、最適な形式を選定する。



■ 淀川における桁下が低い橋梁



橋梁の桁下高が計画高水位を下回っているケースや、橋脚の本数が多い等、現行の構造基準に適合せず、流下能力の支障となっている橋梁については、改築することで流下能力の向上、橋梁流出防止、ひいては堤防破堤回避による治水安全度の向上に資する。

● 橋梁改築後イメージ



● 委員会等からの意見

阪神西大阪線淀川橋梁改築事業は、河川整備の進捗状況だけでなく、社会基盤の整備という観点を加えて、総合的に判断する必要がある。

阪神電鉄西大阪線橋梁は、橋脚の本数が多いうえに、桁下が低く、流下能力の支障となっているが、改築には多額の費用を要するため、改築時期については、河川整備の進捗状況だけでなく、交通障害の社会に及ぼす影響という観点を加えて、総合的に判断する必要がある。

● 進捗状況報告

H11年度に特定構造物改築事業として採択され、ボーリング調査や橋梁の詳細設計を実施してきており、現在、事業化に向けて、橋梁構造検討とともに関係機関との調整を図り、H21年度を目標に都市計画決定手続きの準備を進めている。